3　　母子猿の相愛 　文法　動詞①　四段活用

国の住人太郎入道とⓐいふものありけり。男なりける時、つねに猿を射けり。ある日、山を過ぐるに大猿ありければ、木に追ひのぼせて射たりけるほどに、ⓑあやまたずかせぎに射てけり。すでに木より落ちむとしけるが、①何とやらむ物を木のに置くやうにするを見れば、子猿なりけり。②おのがきずをⓒ負ひて土に落ちむとすれば、子猿を負ひたるをたすけむとて、木のに据ゑむとしけるなり。子猿はまた、母に付きて離れじとしけり。③かくたびたびすれども、なほ子猿付きければ、④もろともに地に落ちにけり。それより長く、⑤猿を射ることをばとどめてけり。

語注

豊前国＝現在の福岡県東部と大分県北部。

基本古語

かく（副）＝このように。

なほ（副）＝やはり。依然として。

【原文】

国の住人太郎入道といふものありけり。男なりける時、つねに猿を射けり。ある日、山を過ぐるに大猿ありければ、木に追ひのぼせて射たりけるほどに、あやまたずかせぎに射てけり。すでに木より落ちむとしけるが、何とやらむ物を木のに置くやうにするを見れば、子猿なりけり。おのがきずを負ひて土に落ちむとすれば、子猿を負ひたるをたすけむとて、木のに据ゑむとしけるなり。子猿はまた、母に付きて離れじとしけり。かくたびたびすれども、なほ子猿付きければ、もろともに地に落ちにけり。それより長く、猿を射ることをばとどめてけり。

問一　次の「内容わしづかみ」の空欄に本文中の語句を書き入れよ。

〔　　　　　〕が、ある日〔　　　〕を連れた〔　　　〕を射た。母は〔　　　〕を助けようとしたが、結局は二匹とも木から落ちて死んでしまった。それ以来、〔　　　　　〕は〔　　〕を〔　　　〕ことをやめてしまった。

問二　チェック問題　動詞①　四段活用

　⑴　二重線部ⓐ～ⓒの動詞について、次の活用表を完成させよ。〈1点×3〉

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| ⓒ | ⓑ | ⓐ |  |
|  |  |  | 基本形 |
|  |  |  | 語幹 |
|  |  |  | 未然形 |
|  |  |  | 連用形 |
|  |  |  | 終止形 |
|  |  |  | 連体形 |
|  |  |  | 已然形 |
|  |  |  | 命令形 |
|  |  |  | 活用行 |

⑵　次の（　　）内の動詞を、指定された形に活用させよ。〈2点×5〉

1　いにしへのの有様を（問ふ・未然形）せたまひてこそ、…（大鏡）

2　といふ鳥、岩の上に（あつまる・連用形）居り。（土佐日記）

3　この世の人は、男は女に（あふ・連体形）ことをす。（竹取物語）

4　恐ろしと（思ふ・已然形）ども、すべきやうもなくて居たれば、…（宇治拾遺物語）

5　おのれはとうとう、女なれば、いづちへも（行く・命令形）。（平家物語）

1〔　　　　　　〕　2〔　　　　　　〕　3〔　　　　　　〕

4〔　　　　　　〕　5〔　　　　　　〕

問三　傍線部①・②は具体的には何であるか。それぞれ本文中から二字で抜き出して答えよ。〈5点×2〉

①〔　　　〕　②〔　　　〕

問四　傍線部③とは具体的にはどのようなことをいうのか。二十字以内で答えよ。〈12点〉

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問五　傍線部④のようになった理由として最も適当なものを選べ。〈7点〉

ア　子猿が恋しさから母猿にしがみついていたから。

イ　子猿も母猿と同じく矢傷を負っていたから。

ウ　母猿が子猿を誤って木から落としてしまったから。

エ　母猿を追うように、子猿も自ら落ちたから。

〔　　　〕

問六　傍線部⑤について、やめた理由の説明として最も適当なものを選べ。〈8点〉

ア　猿一匹満足に射止められない未熟な弓の腕前に嫌気がさしたから。

イ　一本の矢で二匹の猿を射止めるに至った弓の腕前に満足したから。

ウ　母子猿のを見て、猿を射ようとする気が失せてしまったから。

エ　仏門に下っている者として、無用な殺生を恥ずかしく感じたから。

〔　　　〕

【解答】

問一　太郎入道　子猿　大猿　子猿　太郎入道　猿　射る

問二　⑴〈1点×3〉

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| ⓒ | ⓑ | ⓐ |  |
| 負ふ | あやまつ | いふ | 基本形 |
| 負 | あやま | い | 語幹 |
| は | た | は | 未然形 |
| ひ | ち | ひ | 連用形 |
| ふ | つ | ふ | 終止形 |
| ふ | つ | ふ | 連体形 |
| へ | て | へ | 已然形 |
| へ | て | へ | 命令形 |
| ハ行 | タ行 | ハ行 | 活用行 |

⑵　1＝問は　2＝あつまり　3＝あふ　4＝思へ　5＝行け〈2点×5〉

問三　①＝子猿　②＝大猿〈5点×2〉

問四　大猿が子猿を木の股に置こうとすること。（19字）〈12点〉

問五　ア〈7点〉

問六　ウ〈8点〉

【現代語訳】

豊前国（現在の福岡県東部）の住人で太郎入道という者がいた。俗人であった時、いつも猿を射（てい）た。ある日、山を越える時に大猿がいたので、木に追いやってのぼらせて射たところ、狙いを外さず木の股で射てしまった。（大猿が）今にも木から落ちようとしていたが、（大猿が）何か（わからない）物を木の股（のところに）置くようにするのを（太郎入道が）見ると、子猿であった。自分が（矢）傷を負って地面に落ちようとするので、子猿を背負っているのを助けようと思って、木の股（のところ）に置こうとしたのである。子猿はまた、母にしがみついて離れまいとした。このように何度も（やりとりを）するけれども、やはり子猿がしがみついたので、一緒に地面に落ちてしまった。それから長い間、（太郎入道は）猿を射ることをやめてしまったとかいうことだ。

【補充問題】

問１　「あやまたずかせぎに射てけり」（２～３行目）とあるが、何を射たのか。本文中から二字で抜き出して答えよ。

問２　本文の内容に合致するものを一つ選べ。

ア　太郎入道は、出家してからも長らく猿を射ることを続けていた。

イ　子猿は、太郎入道から上手く逃れることができず、死んでしまった。

ウ　太郎入道は、大猿が木に登っているのを見つけて、射かけた。

エ　母猿は無傷の子猿だけでも助けようとしたが、叶わなかった。

【補充問題解答】

問１　大猿

問２　エ